

第 16 回日本生殖心理学会学術集会

シンポジウム

東京（東京）

統合医療の中での栄養カウンセリングの役割

IVF なんばクリニック 生殖栄養カウンセラー（管理栄養士）

神徳美奈江

生殖医療の現場で栄養カウンセラーとして長く携わっている中で、特に最近感じることもある。私がこの仕事に就いた当初は、「不妊治療をしていることを内緒にしている」

「IVF で妊娠すること自体隠したい」という風潮が強かった。しかし、最近は“妊活”という言葉が一般化し、有名人が SNS など自身の不妊治療の内容を公にすること、不妊治療に取り組む夫婦のドラマが放送されることなど、不妊治療はポピュラーなものへと変貌しつつある。そして妊活の取り組みの中には、食事や運動、漢方やサプリメント、鍼治療なども含まれるようになった。かつては「何を相談していいかわからないが、医師に勧められたので」「なにかいいことを教えてくれそうなので」と内容が曖昧な相談が多かった。しかし、最近は「マクロビに取り組んでいるが間違っていないか」「血糖が悪いと聞いたので糖質制限している」など、具体的な内容を相談されることが多くなっている。具体的な内容が多くなったことで、間違った情報に囚われる患者も多く、余計な心配事が増えている。そのため更にネット検索に走ってしまうということも多くなってきた。

当院では統合医療部門を構築し、文字通り多方面の専門家が集まり、治療に合わせて患者をサポートしている。しかし、専門家が個々に患者対応するのではない。統合医療を総合的にコーディネートする統合医療コーディネーター（看護師）が存在する。コーディネーターは専門家が出す意見に耳を傾け、その意見をまとめ、患者の意向と気持ちも傾聴し、その上で専門家へ対応を依頼するという役割を担っている。不妊治療を始めたばかりの方も、不妊治療に行き詰った方も、すべての患者が統合医療を受けられ、治療と統合医療の双方から患者をサポートするというシステムが当院では当たり前のようになっている。栄養カウンセリングを利用される患者は、自ら進んで相談に来られる場合だけではない。このコーディネーターからの奨め、医師からの指示、その他のスタッフからの奨め等様々なきっかけで来室されている。このシステムが立ち上がるまでの歴史と現在の状況についても簡単に説明したいと思う。

栄養カウンセリングでは、主に活性酸素対策、体重管理が主な相談内容となっているが、インスリン抵抗性・高血圧・高脂血症、ビタミン D・Fe 不足、精子・卵子の質向上、

妊婦栄養等々非常に多岐にわたっている。そのため、管理栄養士としての知識も広く要求されることは勿論、治療のことも充分理解しておくことが必要となる。更に食事は毎日の積み重ねであり、継続することが必須である。生活の一部として取り入れ無理なく継続できるようにするため、定期的に来談できる栄養マネジメントコースも設置している。コースを利用する患者の治療段階やホルモン数値の変動も把握しながらカウンセリングを行うことは、患者との信頼関係を築くためにも重要である。なぜなら患者からは体重管理等だけでなく現在の治療状況にどのような食事がいいか等の相談もあるからだ。

このように栄養カウンセリングは、治療に沿って行っているが、そのことを患者が知らなければ、必要性を理解することができない。統合医療のシステムがこの点を解消していると考えられる。今回の講演では、統合医療部門の中での栄養カウンセリング、不妊治療の中での栄養カウンセリングの役割をお話したいと思う。

略歴

- 2000年3月 栄養士免許取得
- 2000年4月 小児アレルギー食、小児栄養を専門に
認可保育園で栄養士として勤務
- 2005年6月 管理栄養士免許所得
- 2005年9月 IVF なんばクリニック入職、現在に至る